

生成系 AI が大学での成績評価に及ぼす影響

木村佐千子（獨協大学）

目次

1. 生成系 AI 時代の成績評価の前提
 - 1.1. 現状整理
 - 1.2. 全面禁止は現実的ではない
 - 1.3. AI リテラシー教育の必要性
 - 1.4. 各教員による方針明示の必要性
 - 1.5. 生成系 AI の使用を確実に検知できるツールはない
2. 生成系 AI 時代の成績評価
 - 2.1. 試験
 - 2.2. 授業内課題
 - 2.3. レポート以外の提出物
 - 2.4. レポート
 - 2.4.1. レポート作成をめぐって
 - 2.4.2. 生成系 AI の使用を明記させるか
 - 2.4.3. 口述試験の併用
 - 2.4.4. 生成系 AI 活用を前提として成績評価をおこなう際の注意点
3. これからの大学教育



1. 生成系 AI 時代の成績評価の前提

1.1. 現状整理

- ・生成系 AI 導入積極派も慎重派もいるなかで、大学教育の転換期ともされる。
東京大学副学長 太田邦史教授（朝日新聞、5月9日）
「教員側としても今までの教育の方が楽し、変化が起きてほしくない『現状維持バイアス』は誰しにも働く。見解 [4月3日の「生成系 AI について」] には、今はそういう状況じゃない、という警鐘をこめた。社会が変化するなら、先取りしてそれに対応するしかない。」
大阪大学 栄藤稔教授（日経産業新聞、8月4日）
「生成 AI に限らず、新技术を積極的に使う、使わないで教育が二極化していくことが危惧される」
玉利信吾氏（日本経済新聞、8月16日）「大学の役割自体が問われている」
- ・駒澤大学で1月に ChatGPT が書いたレポートに「一番上の評価 S」がついた例（日本経済新聞、8月16日）
- ・ChatGPT は、米国の弁護士試験や医師国家試験にも上位合格する水準。
- ・質問応答、情報収集、要約、アイデア出し、壁打ち、各種文章作成、推敲、外国語文添削指導、表の作成等も。
- ・明記されていない小説のオチまで読み取ってクリアに解説。

1.2. 全面禁止は現実的ではない

- ・文部科学省「大学・高専における生成 AI の取扱いについて」（7月13日）
「生成 AI を利活用することが有効と想定される場面としては、例えば、ブレインストーミング、論点の洗い出し、情報収集、文章校正、翻訳やプログラミングの補助等の学生による主体的な学びの補助・支援などが考えられる。この他にも、生成 AI は、今後さらに発展し社会で当たり前に使われるようになることが想定されるという視座に立ち、生成 AI の原理への理解、生成 AI へのプロンプト（質問・作業指示）に関する工夫やそれによる出力の検証、生成 AI の技術的限界の体験等により、生成 AI を使いこなすという観点を教育活動に取り入れることも考えられる。また、上記の学生による利活用以外にも、教員による教材開発や、効果的・効率的な大学事務の運営等に利活用することも考えられる。」
- ・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」¹
- ・うまくツールとして使えば、人間の能力拡張にも。

¹ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm

1.3. AI リテラシー教育の必要性

鳴門教育大学 藤村裕一教授 https://doi.org/10.15077/jsetstudy.2023.2_75

生成系 AI に関する授業を受けた鳴門教育大学教職大学院生 75 名を対象とする調査では、96%が生成系 AI を使う前に事前指導が必要だと答えた。

【注意事項の例】

- ・対話型生成系 AI だけでも多種あるので、目的等に合わせて選ぶ。
- ・生成系 AI の生成物には誤りが含まれることもある²。自分で事実確認をすること。
- ・ChatGPT は（原則として）2021 年 10 月以降の情報はもたない。（Bing AI Chat や Google Bard はネット検索可）
- ・生成系 AI の答えには「ゆらぎ」が与えられている。
- ・著作権侵害に注意する³。
- ・個人情報・機密情報は原則として入力しない。
- ・学習データに由来するバイアスが見られることがある。
- ・プロンプトの出しかたを工夫する。（質問のしかたによって、得られる答えが大幅に異なる。）
- ・依存することのないように、ツールとして部分的に活用する。
- ・擬人化しない。

1.4. 各教員による方針明示の必要性

担当教員の指示によるとしている大学が多い。

指示がない場合、生成系 AI を使った学生と使わなかった学生を同じ基準で成績評価することに？

→各教員が各授業・課題ごとに生成系 AI に関する方針を示す（シラバスに明記するなど）。

1.5. 生成系 AI の使用を確実に検知できるツールはない

OpenAI のウェブサイトにも 8 月 31 日に公開された Educator FAQ… “Do AI detectors work? – In short, no.”⁴

2. 生成系 AI 時代の成績評価

徳島大学「生成 AI を活用するための基本方針」 <https://www.tokushima-u.ac.jp/docs/50361.html>

「教員は成績評価等において、学生が生成 AI を利用すれば答えが得られるような課題を控える」

2.1. 試験

生成系 AI を用いても答えられないような試験問題は、現時点でも作りにくい。

口述試験か電子機器持込禁止の対面筆記試験（机間巡視必要。厳格におこなうなら大学の定期試験期間）。

～電子機器を使えばすぐ調べられる時代に、知識重視・暗記型教育が必要か？

オンライン試験で生成系 AI が使えないようにするには、特別なシステムが必要では。参考：TOEFL

2.2. 授業内課題

respon を使ってコピー&ペーストをできなくする方法あり⁵。

2.3. レポート以外の提出物

要約課題・日本語の小論文・外国語の作文も生成系 AI の使用を認めないなら対面授業で。

外国語の朗読・発音課題についても音声合成 AI があるので注意。

*学生の真摯な取り組みを正當に評価するためにも、不正防止対策が大切。

2.4. レポート

2.4.1. レポート作成をめぐって

- ・著作権侵害を理由として生成系 AI からのコピー&ペースト禁止はできない。
- ・5 月 24 日～6 月 2 日に行われた DBER の調査では、回答した 4000 人の大学生（学士課程）の約 14%がレポート等提出物の作成のために ChatGPT を使った経験あり⁶。
- ・武蔵大学の庄司昌彦教授の調査によれば、生成 AI の利用について対応を公表している 193 の大学・学部のうち約 1 割で、学生がレポートを作成する際に生成 AI の利用を禁じている⁷。

² 「ハルシネーション」のほか、意図的に嘘をついた例も報告されている。

³ AI の著作物には一般には著作権は生じない。学習データに含まれる著作物と似たものが生成された場合には、現行の法律では、依拠性や類似性にもとづいて判断される。

⁴ <https://help.openai.com/en/articles/8313351-how-can-educators-respond-to-students-presenting-ai-generated-content-as-their-own>

⁵ <https://kyodonewsprwire.jp/release/202304265274>

⁶ https://dber.jp/wp-content/uploads/2023/06/chatgpt_report.pdf。

⁷ <https://news.yahoo.co.jp/articles/8820c8e128dc9bfc974c69173250c3883defa7cf>

・文部科学省「大学・高専における生成 AI の取扱いについて」（7月13日）

「大学・高専における学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成 AI の出力をそのまま用いるなど学生自らの手によらずにレポート等の成果物を作成することは、学生自身の学びを深めることに繋がらないため、一般に不適切と考えられる」しかし、教員側でコピー&ペーストの判定はできない。

→授業外に取り組みさせる提出物に、生成系 AI の使用を完全に禁止することは難しい。

・実例：生成系 AI を使う実験授業内 300～400 語のドイツ語レポート

テーマ設定、構成、ファクトチェック、出典の明記、ワード数確認などの条件をつけたところ、実験授業参加学生全員が、「そのままでは使えない」と判断。

→「アイデア出しには有効」「自分で情報を調べて構成を相談するのがよい」

「タイトル、章立てを考えさせる」「自分で書いたあとにドイツ語の添削をしてもらう」

*実際に使ってみることで学生自らが問題点やふさわしい活用法に気づいた。

*現時点では、信頼できるウェブサイトや文献を参照して出典注をつけ、内容をきちんと確認するよう指示することが、コピー&ペーストによるレポートの予防策になりうる。

*より質の高いレポートを書くために、生成系 AI を活用する方向へ。

2.4.2. 生成系 AI の使用を明記させるか

文部科学省「大学・高専における生成 AI の取扱いについて」（7月13日）

「学生がレポート等に生成 AI を利活用した場合には、適切に学修成果を評価するため、利活用した旨や利活用した生成 AI の種類・箇所等を明記させることや、小テストや口述試験等を併用するなど評価方法の工夫を行うことも有効と考えられる。」

*問題点 生成系 AI の利用を検出できるツールがない。

検索ツールにも生成系 AI が組み込まれており、意識せず使うことも考えられる。

→むしろプロセスの提示？

2.4.3. 口述試験の併用

本来であれば、これまでもレポート内容の口述確認は必要だったのでは。

→授業内に口述試験（+プレゼンテーション？）を組み込むとすると、レポート科目の定員設定？

大阪大学 栄藤稔教授（日経産業新聞、8月4日）

「問われるのは、学生がみずからの責任で採用した表現」「コンピュータが自動生成したかどうかは関係ない」生成系 AI を用いたとしても、最終責任は学生自身に。自分にしか書けないレポートを。

2.4.4. 生成系 AI 活用を前提として成績評価をおこなう際の注意点

前提：事前に生成系 AI 利用に関する方針を明示。デジタルデータ（も）提出。

教員が ①記述の内容に間違いがないかよく確認

②注と文献表の確認

③文字数・ワード数の確認

④技術の進歩に常に目を配る

⑤経済格差の問題を考慮する（有料アカウントの月額料金）

①～③…誤り等があればフィードバック。AI リテラシーを身につけてもらうためにも指導を。

④…生成系 AI の利用が成績評価に関わるケースが多いため、教員自身が生成系 AI を使って何ができ、どのような質のものが生成されるのかを知らなければ、学生の提出物を正當に評価できない。

3. これからの大学教育

米国の医師国家試験や弁護士試験に上位合格するレベルの ChatGPT-4 を前

に、AI のほうが能力が高いと感じてしまう学生への対応は？

大学での専攻等はその後の仕事にはほとんど関係ない？

AI リテラシー以外に、何を身につけてもらうのがよいのか？

★天野貞祐（獨協大学創立者）「大学は学問を通じての人間形成の場」

☆AI のほうが将棋が強くても、藤井聡太氏は注目を集めている。

生成系 AI の普及により、学生への要求度も教員への要求度も高くなる？

転換期を乗り越え、AI をツールとしてとり入れてよりよい大学教育へ。

